

給与計算ソフトとの出会い

「お買い上げ頂く前に、お伝えしたいこと」

FIRSTITPRO 代表 川端 俊之

平成3年2月に私はコンピュータの業務ソフトを開発する会社を設立しました。従業員は私を含めて4人でした。さとうちゃん（佐藤君）と、ますこちゃん（益子君）と私と私の女房で4人です。

業務ソフトを開発する会社というのは、お客さんの所のシステムを開発するのに、元受のメーカーや1次外注のソフトハウスと出向形態の契約をして、お客さんの所有する汎用機コンピュータを使って開発者が寄り集まってシステム開発するわけです。1人月、〇〇万円なんて契約でした。

当時は、創業間もなく、社長だといっても第一線でシステム開発をしていました。出向の契約では時間が拘束されますので、自分の会社の業務は全て、出向先から帰って来た、夜か休日になさすことになります。

小さな会社の社長の仕事というのは、ものすごく多岐に渡ります。

「実際の現場の仕事」「営業活動」「契約や見積・請求・入金・支払業務」「事務所の備品管理」や「部下のケア」・・・数え上げればキリがありません。

そんな中、毎月の給与計算業務というのは、たかが4名の計算でも、毎月のことですから、女房と結構、大変な思いをしながらやりました。

あの頃は、日本法令さんが販売していた給与明細のワークシートみたいなのがあって、これに必要な事項を記入すると、給与明細と給与台帳がいつぺんに出来上がるというやつでした。

会計士さんには、毎月の給与計算の結果、出来上がった給与台帳や、請求・入金・売掛などの資料を渡して経理処理をしてもらっていました。女房を経理担当にして、この当たりの業務を全て任せようと思っていたのですが、経理の経験が無かったこともあり、細かい伝票の仕分けや集計程度でも、やはり私に聞かなければ作業が進まない部分が結構あったりして、1年後にはプロである会計士さんに伝票の整理までお願いするようになったのです。（今から考えれば、無駄な出費をしました）

ただ、給与計算や請求・売掛・支払の内容などは、私でないと分からないので、忙しい合間を縫ってやるわけです。

人間ってのは面白いもので、請求書の作成や売掛金の管理なんてのは、「入ってくるお金」の部分なので、これが結構、負担にはならないんです。

逆に、支払や給与計算なんてのは「出ていくお金」の部分なのか、特に計算が絡む「給与計算」についてはすごく面倒に思ったものです。

所得税率や社会保険料の料率なんかは、改正がある度に、前の率で計算してしまったり、時間外手当の計算なんかも集計してチェックして計算して、手書きで書き込んでなんてやっている、結構ミスが多かったことを思い出します。なによりも、時間が「あっ」という間にたってしまうんです。特に手書きの給与計算をしていた頃は、明細を記入すると給与台帳に複写されるのはいいのですが、一人でも間違えると、逆に全て書き直しになるんです。これにはイライラしたし、ウンザリでした。

あれは、確か平成7年の年末が差し迫る冬だったと思います。

私は横浜にある野村総合研究所さんが請け負った、あるシステム開発の仕事に携わっていました。毎日、自宅のあった東京の墨田区から横浜まで約2時間かけて通っていたのです。

そんなある日、そこで知り合った、別会社のシステムエンジニアから「給与計算ソフト」をもらいました。当時は WINDOWS95 というのが出たばかりで、Office95 というのが同時発売されていた頃で、この給与計算ソフトは EXCEL95 で作られたものでした。

実は、このソフトが、今の「給与計算 DX for EXCEL」のルーツ（ベース）となるソフトになります。

私は、自分の会社の給与計算で早速、このソフトを使ってみました。

シートに基本給や手当や交通費など入れて、計算ボタンを押すと、一瞬で、あの面倒だった税金の計算や社会保険料の計算をやってくれるんです。

「こりゃ、いい。楽だあ」 感動でした。ソフト開発を仕事にしているにも関わらず、これまでの数年間、ずーっと手書きで給与計算してましたから。

丁度、この頃、私の会社では、食品スーパーなどにテナント店を展開している食品会社向けに、1年間という歳月を費やして店舗管理ソフトを制作し、売り込み段階を迎えていました。

今までの様な下請的な仕事では、会社の成長が無いと思い、モニタ企業を探し、1年かけて業務ノウハウを教えてもらい、その会社をモデルにソフトを開発したのです。

いわゆるメーカーへの転身でしたが、どこの馬の骨か分からない若造が販売しているソフトなんてのは、誰も買ってくれなかった。

営業で食品関連の会社を必死に回っていた、ある日、一人の社長と出会いました。豆腐の製造工場を手広く経営している会社の社長でしたが、この社長が、「あんたは、いい目をしている。俺たちが参加している経営研究会に入れ」と半ば強制的に、加入させられたんです。

ここで、私は数十名の会社の社長連中と親しくさせて頂くことになりました。この会がキツカケで、私はIT系のコンサルタントの仕事頂くことになったのです。みなさんオフコンのパッケージを導入して四苦八苦していたころでした。

私は、自分の所で使っていた給与計算ソフトを、これらの会社に無料でプレゼントさせて頂いていたのです。

「うちでも使っているものなんですが、良かったら使ってください」

こうやって、数社に配ると、数か月してからのこと、無料で差上げた会社の社長連中から色々と言われるようになりました。

「あの給与ソフトなんだけど、もっとこういう風にできないの？」

「こういう風にできれば、使いやすくなるのにな」
色々注文を付けられることになってくるんです。

「まあ、タダなので、我慢して使ってくださいよ」

なんて最初は言っていたのですが、結局、このままにしておくのもソフト会社とコンサルタントのプライドが許さなくなり、私の時間がある範囲でしたが、給与計算ソフトに手を入れることになりました。

「どうせ手を入れるなら、とことんやってやろう」

こういう気持ちで、当時、私の会社を担当していた会計士さんと、経営研究会にいらした会計事務所の先生と相談しながら、最初の「給与計算 For EXCEL」というソフトウェアが出来上がりました。

EXCEL というのはセルと言われるフリーの枠に入力する仕組みで、使いこなす人はいいのですが、触ったことのない人は、シート自体を壊してしまったり、削除してしまったりしてしまうんです。

「初心者でも、こんな間違いが起きないソフトにしよう」

そういうことで、EXCELなのにセルやシートでの入力ではなく、専用入力フォームからの入力形式に全て作り直しました。この結果、最初に私が配っていたソフトとは全く見た目の違う給与計算ソフトになっていったわけです。

そして、また、経営研究会の社長連中に配り、使いづらいと言われれば、それを改善し、また配り・・・

これを1年くらい繰り返し返しました。

私の会社でも、当然、このソフトを使って給与計算してましたし、開発もやっていたので、段々と給与の業務知識や、本当に必要な機能はなんなのかということが分かってくるんです。

当時、私の会社は従業員5名、経営研究会の社長連中の会社は社員が10名
く30名くらいで、あとはパートさんを雇っていました。

「給与計算ソフトは使いやすくなって助かってるけど、パートの時給計算が
しんどいんだ。なんとかならんかなあ」

ある日、製麺工場を経営していた社長に言われました。こここの工場は、1日
の時間帯を5段階くらいに区切ってパートさんをうまくシフトして人件費を
コントロールしながら製造ラインを動かしていました。

「うちの場合、時間帯によって時給が違うし、パートさんによってもそれぞれ
時給単価が変わってくるから、計算が大変なんだよ」

自動で計算して、その結果を給与明細に入れてくれるようなソフトがあれば最
高だということです。

確かに、タイムカードの集計はタイムレコーダに付属している機能やソフト
である程度は可能ですが、人別・別時間帯別・休日や休憩時間などを考慮して、
時給計算する機能はなかなか無い。

「よし、乗りかかった船だ。この社長が困っているなら多くの人が同じように困っているかもしれない」

そう思って、タイムカードの打刻内容を入力するだけで、人別・別時間帯別・休日や休憩時間と時給条件を考慮して、すべての労働時間と賃金を計算するソフトである「タイムカード計算 for EXCEL」が誕生しました。

だいぶ長いお話になってしまいましたが、読んでいただいてお分かりの通り、私どもの「給与計算ソフト」や「タイムカード計算ソフト」は、ちよつと、誕生から毛色が違うんです。

普通のソフトメーカーさんは、色々な利便性を考えて、多機能で先進的な技術で様々な機能をソフトに盛り込んで、どんな規模や、どんな給与形態にも対応できることをセールスポイントにして、大々的に売り出すというスタイルです。

これに対して私どものソフトは、もともとはコンサル契約して頂いた会社への「おまけ」の品（無料）。50人までしか処理できない上に、宣伝なし、利益なし。そもそも売っていないソフトだった。

そんな中、コンサルの延長の話で、給与計算ソフトに色々な要望が出て来て、「実際に使っている人達の生の声を取り入れて。もっともっと、良いものにしてよう」と会計士さんと相談しながら、作り込んでいったんです。

だから、このソフトは「作り手」では無く「使い手」であるお客様から生まれた給与計算ソフトなんです。

こういう、実際の会社を相手にして、使い手の観点で作り込んでいったソフトなので、とにかく「迷わない」「簡単に」「シンプルに」ということを徹底してきました。

このソフトは、従業員が50名以下までしか処理できません。もともと30名程度、処理できれば、私のコンサルしていた会社では事足りたんです。余裕をもって50人までという仕様になりました。だから、現在でも、ご購入頂いている会社は従業員20名以下の会社が90%位を占めます。

こういうソフトなのですが、私どもは大きな自信を持っております。

現在、インターネットで様々な会社が発売している給与計算ソフトですが、他社の体験版をダウンロードさせて頂いて、実際に使わせて頂くと、この道のプロである私どもでも毎月の給与計算処理にたどり着くまでに、様々な登録作業がありすぎて、疲れてしまうんです。

これは機能が多いからなんです。

どんな規模の会社にも適合するように作り込んだ結果、機能が多い分、入力や設定が多い。調べて入力しなければならぬ部分が沢山でてくるんです。

ですから、使い出すまで、かなりのストレスがかかります。多分、これでは、従業員20人以下、10名以下の会社では、かつての私がそうだったように、社長や社長の奥さんが使い出すことは難しいでしょう。

私どもの「給与計算ソフト」は多機能ではありません。

しかし、給与計算で小さな会社が必要とする部分、芯の部分はシツカリと持っているのです。この規模の会社であれば、ストレスを感じることなく、スムーズに使い出せるはずです。

これは、私どもの言葉では無く、お客様から頂く言葉から感じるもので、この給与計算ソフトを販売開始してから累積4,000社超の会社様にご購入頂きましたが、大変にご好評をいただいております。

ホームページでも言っている通り、今後もこのソフトを私どもで販売する限りでは市販品として一般流通させることは考えておりません。インターネットでのみ販売するスタイルで参ります。

本当は、もっともっと沢山の会社様に使っていただきたいのですが、一般流通にかかるコストや、仕切り、営業にかかるコストなどをかけると、現在の価格ではご提供できなくなるんです。

私どもは、コンサル組織であり、ソフトメーカーでは無いので、お客様には最良の物を、より少ない負担でご提供したいのです。ソフトメーカーになってしまった瞬間に、お客様の顔が見えなくなってしまうんだと思います。

価格も現在の、9,980円より上げるつもりはありません。やはりこの値段であることが、インターネットでのみの販売でも、多くのお客様が購入して頂ける金額なのでしょう。

最近では、税理士さんや社労士さんも、お得意様向けにご紹介頂いている状況になっております。おすすめしやすい価格でもあるのだと思います。

これからも、毎年、毎年、「迷わない」「簡単に」「シンプルに」を合言葉に、お客様の言葉をバージョンアップに反映させていきたいと思えます。

これまでに多い年は年3回のバージョンアップをしたこともありましたが、年末調整機能を除くバージョンアップは全て無料でご提供しております。サポートも無料です。

是非、この自信作「給与計算 DX for EXCEL」「タイムカード計算 for EXCEL」を、30名以下の会社様であればお試しになってみてください。無料でホームページからダウンロードして1カ月間、お試しになれます。

必ず、満足していただける自信作で、心からおススメすることのできるソフトです。

ご検討頂き、ご縁を頂ければ、これ以上、嬉しいことはありません。

追伸・

なぜ、「50名までの給与計算ソフト」なのに30名以下の会社に勧めるのかをご説明していませんでしたので、追記させて頂きます。

処理人数が30名を超えてくると、このソフトには搭載されていない機能が必要になってくるのです。

それは、社会保険の算定基礎届け等の諸届け資料の印刷機能であったり、銀行振込のファームバンキング機能であったり、昇給や賞与のシミュレーション機能であったりします。

これらの事務負担が大きくなってくるのが20名〜30名が境だということ
が、これまでの15年間、様々な会社のお手伝いをさせて頂いて実感しており
ます。

ですから、上限の30名以下の会社様にお勧めしております。是非、お試し
くださいませ。

ありがとうございますございました。